

【論文を仕上げるプロセスについて】

- 論文を仕上げるまで、繰り返し文献に当たり、批判的に読むことから序々に自分が述べようとする主題（論文で述べようとする中心的な主張、事柄）を定めてゆきます。また主題をより具体的にするために、1次調査の準備も始めることが必要となります。
- 論文を仕上げる作業は、下に述べた順番でおこなう一直線の作業ではなく、必要に応じて行きつ戻りつしながら、進めてゆくものであることに留意してください。
- これらのプロセスを鑑み、論文提出までの具体的なタイム・スケジュールを計画してみましょう。

論文を仕上げるまでの作業

(1) トピックの選定

- 1 学部時代の基礎知識から推察する。
- 2 指導教官と話あう

(2) トピックに関する二次調査（文献調査）

- 1 文献を集める。
- 2 文献を大まかに読む。
- 3 文献を分類・自分の目的との関係で整理する。
- 4 重要で新しい文献から再び読み直す。

(3) トピックから自分の論文で著す『主題』を仮に定める。

- 1 (イ) で整理した文献と主題の関係を見定めなおす。
- 2 もっとも中心となる文献を注意深く、批判的に読む。
- 3 さらにどのような調査（1次調査を含む）が必要かを見定める。

(4) アウトラインを書く（カード型のノートを利用してみる。）

- 1 一段落、一行に対応するできるだけ詳しいアウトラインを書けるか吟味する。
- 2 アウトラインに書かれた並びが論理的であるか検討する。
- 3 ①、②の基準でアウトラインを見直し、十分に調査がなされていない場合については、さらに1次、2次の調査を繰り返す。

(5) 論文の草稿を書き始める（注意：イントロダクションからは絶対に書かないこと。本論が書けないのに「紹介文」は書かない。）

- 1 「本論」を書く
- 2 「結語」を書く
- 3 「はじめに」（イントロダクション）を書く。

(6) 第一草稿（1稿）が出来上がったら、校正を書ける。

(7) 最低限1回は草稿を校正したもの（2稿）を指導教官に見せる。

（指導教官によって第一稿の作成段階から閲覧を希望する先生もいます。よく話あって進めること。）

- (8) 指導教官の意見やその他の閲覧者（セミナーなどを行った場合にはその際のコメント）などの意見も取り入れ、草稿を更に手直しする。（3稿）
- (9) 3稿の句読点、語法、引用のスタイルなどをチェックしたのち、指導教官に提出する。
- (10) 指導教官からの意見をもとに、最終版を提出する。（校了）